

<問題－IV－（２）：建設環境>

1. 環境影響評価の環境保全措置の検討において最も優先すべきものとして、正しいものを a～d のなかから選びなさい。
 - a. 最小化
 - b. 代償
 - c. 回避
 - d. 低減

2. 個別事業の法律で環境影響評価の実施を求めているものとして、誤っているものを a～d のなかから選びなさい。
 - a. 港湾法
 - b. 公有水面埋立法
 - c. 道路法
 - d. 電気事業法

3. 環境影響評価法に関する記述のうち、誤っているものを a～d のなかから選びなさい。
 - a. 第二種事業については、法対象事業とするか否かを判断するスクリーニング手続きが規定されている。
 - b. 法対象事業については、方法書の公告・縦覧及び説明会の開催により、環境影響評価の実施方法に関する意見を求めるスコーピング手続きが規定されている。
 - c. 事業者が作成した環境影響評価書に対して環境大臣が環境の保全の見地からの意見を述べる事ができる仕組みが規定されている。
 - d. 予測の不確実性が大きい場合、効果に係る知見が不十分な環境保全措置を講ずる場合等においては、環境への影響の重大性に応じ事後調査の必要性の検討や事後調査の項目、手法の内容等を明らかにするよう規定されている。

4. 『大気汚染に係る環境基準について』で規定されている浮遊粒子状物質の測定方法について、正しいものを a～d のなかから選びなさい。
 - a. ザルツマン試薬を用いる吸光光度法
 - b. 濾過採集による重量濃度測定方法
 - c. 非分散型赤外分析計を用いる方法
 - d. 溶液導電率法

5. 風害の予測手法として、誤っているものを a~d のなかから選びなさい。
- 類似事例による予測
 - 流体数値シミュレーション
 - フォト・モンタージュ法
 - 風洞実験
6. 京都議定書に関する記述のうち、誤っているものを a~d のなかから選びなさい。
- EU加盟国、米国、日本や中国、インド等各国の温室効果ガス排出量について、法的拘束力のある数値目標を設定。
 - 数値目標は、2008年~2012年の5年間（第1約束期間）に対して適用。
 - 数値目標を達成するための補足的な仕組みとして、市場原理を活用する京都メカニズムを導入。
 - 数値目標を達成できなかった締約国に対しては、過剰に排出した量を1.3倍し、第2約束期間の総排出枠から差し引く、遵守行動計画を作成するなどの措置が講じられる。
7. 環境リスクに関する記述のうち、誤っているものを a~d のなかから選びなさい。
- リスク・アセスメントとは、科学的な知見によってリスクを客観的に評価することをいう。
 - リスク・コミュニケーションとは、リスクを客観的に評価する際に、リスクの拡がりを分析することをいう。
 - リスク・マネジメントとは、リスク評価の結果を踏まえて環境リスクの低減方策を検討・決定し、実施することなどをいう。
 - ゼロリスクの原則とは、閾値がある化学物質等でリスクをゼロにすることをいう。
8. 温室効果ガスであり、かつオゾン層の破壊を引き起こす物質として、正しいものを a~d のなかから選びなさい。
- 二酸化炭素
 - フロン
 - メタン
 - 二酸化窒素

9. 平成19年6月1日に閣議決定した「21世紀環境立国戦略」における今後1,2年で重点的に着手すべき8つの戦略として、誤っているものをa~dのなかから選びなさい。
- 環境優先の低成長社会の構築
 - 気候変動問題の克服に向けた国際的リーダーシップ
 - 3Rを通じた持続可能な資源循環
 - 公害克服の経験と智慧を活かした国際協力
10. 騒音に係る環境基準において、「道路に面する地域」の特例である「幹線交通を担う道路に近接する空間」の幹線交通を担う道路として、正しいものをa~dのなかから選びなさい。
- 高速自動車国道及び一般国道
 - 高速自動車国道、一般国道、都道府県道及び4車線以上の市町村道
 - 4車線以上の道路
 - 25,000台/日以上交通量がある道路
11. 農山漁村地域において、その自然、文化、人々との交流を楽しむ、滞在型の余暇活動が各省庁や自治体の主導で推進されている。これらの呼称として誤っているものをa~dのなかから選びなさい。
- エコ・ツーリズム（環境省）
 - グラン・ツーリズム（経済産業省）
 - グリーン・ツーリズム（農林水産省）
 - ブルー・ツーリズム（国土交通省・水産庁）
12. 地域の生態系維持を目的とし、指定された動植物の採取が規制される「野生動植物保護地区」の根拠法令は何か。正しいものをa~dのなかから選びなさい。
- 自然公園法
 - 自然環境保全法
 - 鳥獣保護法
 - 種の保存法

13. 近年、日本の沿岸域で問題が顕在化している「磯焼け」に関する記述のうち、正しいものを a~d のなかから選びなさい。
- a. 藻場を形成する海藻が著しく減少する。特にサンゴモは打撃を受けやすい。
 - b. 海底を覆うアマモは、表面から他の海藻が付着するのを防御する物質を分泌するため、磯焼けになると大型の藻類の回復は困難となる。
 - c. 磯焼けになると大型の藻類の回復は困難となるため、魚は寄り付かず、ウニや小型の巻貝ばかりが目につくようになる。
 - d. 磯焼けの発生要因は、富栄養化の進行に伴う赤潮の頻発であると考えられている。
14. 水質浄化技術の1つである「接触酸化法」に関する記述のうち、誤っているものを a~d のなかから選びなさい。
- a. 接触材に付着した好気性微生物がリンや窒素を分解することで浄化作用を生む。
 - b. 有機物や土砂などの汚濁物質を接触・沈下させる物理的作用も期待できる。
 - c. 捕捉した汚濁物を貯留する容量の確保と十分な酸素の供給が必要となる。
 - d. 接触材として、礫、プラスチック、木炭、不織布など様々なものが利用できる。
15. 陸上昆虫類の調査方法として、誤っているものを a~d のなかから選びなさい。
- a. パントラップ法
 - b. スウィーピング法
 - c. ビーティング法
 - d. フィールドサイン法
16. 資源有効利用促進法において扱われている項目として、誤っているものを a~d のなかから選びなさい。
- a. 製品の省資源化・長寿命化
 - b. 事業者による製品の回収・リサイクル
 - c. 廃棄物の適正処理
 - d. 副産物の有効利用の促進

17. 魚道の設計における配慮事項として、正しいものを a~d のなかから選びなさい。

- a. 魚道入口部では、遡上のきっかけをつかみやすいよう、水制工や巨石積工などによって前面水域に循環流を生み出すことが望ましい。
- b. 横断構造物本体の越流量が大きい場合、落水による水勢が遡上を妨げぬよう、落水部と魚道入口は、なるべく離して設置することが望ましい。
- c. 遡上行動時において、落差のある流れ込みを泳ぎ上がる場合の助走ができ、また休息場ともなるような「深み」を魚道の前面水域に設けるべきである。
- d. 魚道出口付近では、対象魚の突進速度を考慮し、なるべく早く浅い流れを確保しておくことが望ましい。

18. 「川の自浄作用」を説明する記述として、正しいものを a~d のなかから選びなさい。

- a. 物理的作用（流入した汚濁物質が大量の河川水によって希釈・拡散されたり、比重の軽い粒子が速やかに流失して、水中の濃度が減少する作用）
- b. 化学的作用（酸化、還元、凝集、吸着などによって、汚濁物質が無害化したり、沈澱しやすくまた水中に溶出しにくい性質に変化する作用）
- c. 生物的作用（汚濁物質が生物によって吸収・分解される作用。微生物による有機物分解が主たるものであり、窒素・リンには作用が及びにくい）
- d. 社会的作用（川の汚れが地域住民の目に触れることにより、水質浄化意識などの流域住民の意識啓発が高まる作用）

19. 水生植物の分類名とその代表的な種に関する記述のうち、誤っているものを a~d のなかから選びなさい。

- a. 浮遊植物（根が水底に固着せずに水中や水面を浮遊している植物。ウキクサ、ホテイアオイなど）
- b. 浮葉植物（水面に葉を浮かべ水底に根を張った植物。ヒツジグサ、ヒルムシロなど）
- c. 沈水植物（植物体全体が水中にあり水底に根を張っているもの。ジュンサイ、ヒシなど）
- d. 抽水植物（水底に根を張り、茎の下部は水中にあるが茎か葉の少なくとも一部が水上に突き出ているもの。マコモ、コウホネなど）

20. 植生調査の調査手法に係わる説明として、誤っているものを a~d のなかから選びなさい。

- a. 植生調査ではその初期段階に、見通しがきく地点から全域を概観するとともに、航空写真を併用して、優占種やその高さ、常緑・落葉性、色調などから相観区分を行う。
- b. 群落調査では、方形区を設定するとともに方形区ごとに階層区分を行い、各階層毎にその優占種と高さ (m)、植被率 (%) を記録する。また生育する優占種を対象として、被度と群度を判定する。
- c. 群落調査の方形区は、他の植生タイプとの移行帯にあると考えられる地点を避け、それぞれの植生タイプのうち、よく発達している均質な地点を複数点選定することが望ましい。
- d. 方形区の面積は、ある群落がその特徴的な組成や構造を発展させることのできる最も狭い面積以上の広さをとることが必要であり、通常、調査範囲内に生育する植物群落高以上を一辺とする方形区を基準とする。